

苫小牧市立中央図書館 評価と点検について

苫小牧市立中央図書館
指定管理者 TRC 苫小牧グループ

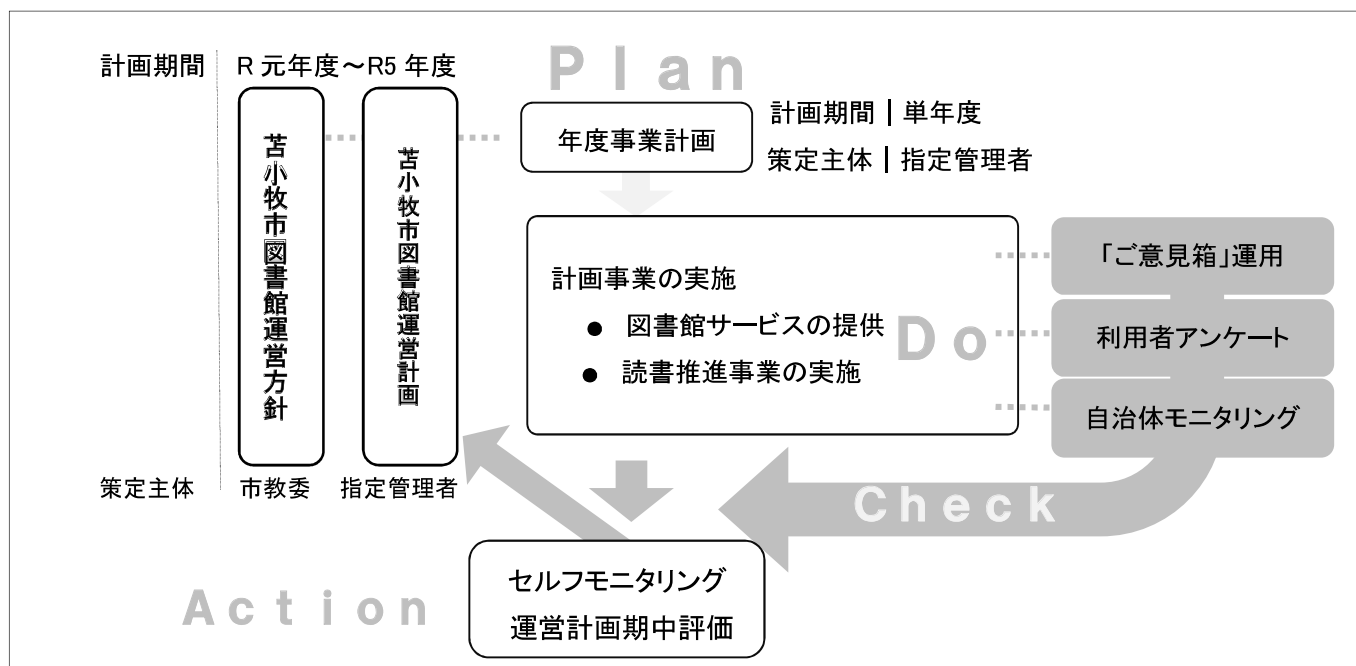
【参考】

「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」(平成24年12月19日文部科学省告示第172号)

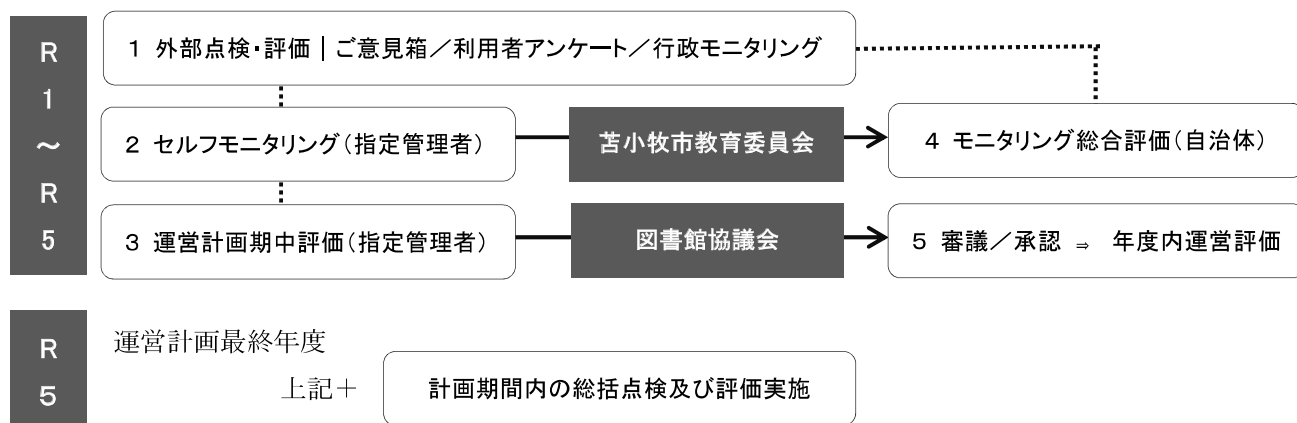
第二――1―(二)運営の状況に関する点検及び評価等

1 市町村立図書館は、基本的運営方針に基づいた運営がなされることを確保し、その事業の水準の向上を図るため、各年度の図書館サービスその他図書館の運営の状況について、(一)の2の目標及び事業計画の達成状況等に関し自ら点検及び評価を行うよう努めなければならない。

1. 運営のフレーム



2. 点検・評価の実施方法について



苫小牧市立中央図書館 図書館運営計画 期中評価(令和3年度)

苫小牧市図書館運営計画で予定した令和3年度の取組について、指標達成度を自己評価します。

図書館運営計画	No.	目標内容
	1	基礎的な図書館サービスの充実
	2	家庭生活及び職業上の課題や地域課題解決のための支援機能の強化
	3	教育的役割を重視した取組の推進
	4	魅力的かつ効果的・効率的な運営体制の構築

運営計画1 基礎的な図書館サービスの充実

事業名	具体内容	実施	取組状況			備考
1-1 資料・情報収集機能の充実	収集基準に基づいた資料収集	○	適時収集			
	特徴ある資料（大活字・洋書・ほか）の継続収集と充実	○	〃			
	郷土・行政資料の継続収集	○	郷土・行政資料蔵書冊数 36,870冊			
	電子書籍をはじめとした電子資料の収集	○	新サービス「デジタル伊能図」・期間限定で雑誌を導入			
1-2 資料・情報提供機能の充実	参考郷土資料室の活用と周知	○	随時			
	レファレンスサービスの周知と充実	○	レファレンスサービス受付件数 4,677件			
	電子書籍をはじめとした電子資料の提供周知	○	ICT講座を実施。PRを図る			
1-3 資料・情報保存機能の充実	資料の適切な管理と保存	○	随時			
	TRC-ADEACを活用したデジタルコンテンツの活用	○	随時			
	電子書籍による地域資料の作成と活用	○	随時。デジタル化点数（累計）10,226点			
1-4 図書館という空間の魅力向上	利用ニーズの把握及び運営への反映	○	サービスアンケート・ご意見箱投書ほかで随時対応			
	乳幼児・保護者のための環境整備	○	★ 毎週木曜日「こそだてtime」を実施			
	障がい者のための環境整備	○	電子図書館テキスト版（視覚障がい者向け）運用中			
	高齢者のための環境整備	○	カウンター・コピー機横に荷物置きを設置			
	フリースペースとしてのリラックススペースの活用	○	ボードゲームの開催、本の展示スペースとして活用			
	外国語版利用配慮	○	随時配布			
	★ リラックススペースの改修・活用	○	改修・リニューアルをし書架とカーペットを設置			
	★ 子育て世代への利用配慮	○	こそだてtime、ベビーベアバック実施			
運営計画1における成果指標	指標算出方法	基準値（H29）	目標値（R3）	当年実績	達成率	
郷土行政資料の蔵書冊数	—	33,938冊	34,575冊	36,870冊	106.64%	
郷土行政資料のデジタル化点数	—	9,797点	10,189点	10,226点	100.36%	

自己評価

昨年度同様、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたが、最小限に押さえることができた。昨年度の重点項目として上げていた2点「リラックススペースの改修・活用」「子育て世代への利用配慮」に関しても、今年度の臨時休館を有効活用し、準備を進め2点とも今年度実施することが出来た。ただ完成ではなく、今後の動向・ニーズに日々対応していきたい。成果指標としてあげていた郷土資料のデジタル化、蔵書冊数については着実に作業進行を行い、いずれも目標を達成できた。

運営計画 2 家庭生活及び職業上の課題や地域課題解決のための支援機能の強化					
事業名	具体内容	実施	取組状況		備考
2-1 課題解決の支援	レファレンスサービスの周知と充実（再掲）	○	レファレンスサービス 受付件数 4,677件（再掲）		
	ICTを用いた情報入手の周知	○	適時実施		
	パスファインダーの作成・配布	○	「お酒（一般）」 「幕末（児童）」		1月
	レファレンス技能の向上	○	各種研修会への参加		
	ICT活用講座の継続開講	○	はじめての電子図書館活用講座 を実施		
	時節に合わせたテーマ展示 （一般・児童・参考郷土）	○	適時実施		
	他市との交換展示	○	栗原市（宮城県）		
	★ 医療サービス支援としての「市民の ための医学講座」コーナーの充実	○	展示場所を変更し年2回 テーマを変更し実施		
	★ ビジネス支援コーナーの充実と活用	○	展示場所を変更し年2回 テーマを変更し実施		
	★ セカンドライフ支援としての 図書館活用ガイダンスの開催	○	シニア世代図書館ガイダンス ツアー実施		12月
2-2 地域の結びつきの再生に向けた支援	市民協働、外部連携の促進	○	適時実施		
	市民ボランティア団体との促進	○	適時実施		
	ボランティア養成講座の開催	○	新規ボランティア養成講座を実施		3月
	既存ボランティアの活動支援	○	青空こども図書館 ・おはなし玉手箱実施		8・9月
	図書館文化セミナー（郷土）開催	○	「アイヌの衣服について」 10月24日開催 27人		
	市民協働事業の推進	○	随時実施		
	★ ボードゲーム活用による 交流の場の創出	○	改修したリラックススペースで 実施 10月30日開催 25人		
運営計画2における成果指標	指標算出方法	基準値（H29）	目標値（R3）	当年実績	達成率
レファレンス受付件数	—	7,362件	7,455件	3,100点	41.58%
自己評価					
成果指標として挙げている「レファレンス受付件数」は、新型コロナウイルスの影響を受け目標は未達成だった。今後は、昨年度導入した非来館者サービスの一環として進めていたレファレンス専用の受付フォームの利便性を周知していき、目標達成を目指す。昨年度延期していた「ボードゲーム活用による交流の場の創出」を今年度実施。また「セカンドライフ支援としての図書館活用ガイダンスの開催」を実施し、両方ともターゲット年齢層に参加してもらえ手ごたえを感じている。ボードゲームでのリラックススペースの活用も効果的であり、今後のリラックススペースの活用に関して示唆を得た。					

運営計画 3 教育的役割を重視した取組の推進					
事業名	具体内容	実施	取組状況		備考
3-1 子どもの読書活動の推進	乳幼児コーナーの充実	○	毎週木曜日に「こそだてtime」実施		
	「赤ちゃん絵本とびら」事業への協力と連携	○	随時実施		
	「赤ちゃんを楽しむ絵本広場」の開催	○	7回 延べ参加者数53人		3回中止
	読書への関心を高める体験型事業の実施	○	絵本作家ワークショップ 3月27日開催 42人		3月
	図書館文化セミナー（児童）の開催	○	作家講演会 10月9日開催 40人		
	学校図書館支援事業	○	「ブックちゃん」 「まなぶくん」		
	YAサービスの周知と充実	○	YA作家トークライブ 10月31日開催 27人		
	「調べる学習コンクール」継続開催	○	応募者数 29作品 入選 8人		
	苦教研学校図書館研究部会との連携	○	読書感想文、感想画など共催ほか		
	市内関連部署との連携	○	介護福祉課ほか		
	移動図書館車による市内保育園への団体貸出	○	随時実施		
	児童センター団体セット貸出 「ぐるりさん」の充実	○	随時実施		
	★ YA世代間の情報・交流コーナーの設置	未	新型コロナウイルス感染防止のため次年度へ延期		
3-2 社会で生きていくための知識・技術等の育成	★ YA図書館交流事業	○	「ひとはことしょかん」中高生編 12月5日開催 16人 YA作家トークライブ 10月31日開催 27人		
	図書館文化セミナー（一般）の開催	○	穂村弘「ことばの不思議」 11月20日開催 40人		
	成人に向けた読書環境支援	○	「ブックディレクターになりましたか」11月27日開催 10人		
	コーナー図書室と連携	○	随時実施（定期連絡会・コーナー巡回ほか）		
	市内各施設との協働・連携事業	○	美術博物館との連携		
運営計画3における成果指標	★ セカンドライフ支援としての図書館活用ガイダンスの開催（再掲）	○	シニア世代への図書館ガイダンスツアー 12月8日開催 9人		
指標算出方法		基準値（H29）	目標値（R3）	当年実績	達成率
児童貸出冊数（中央）		77,687件	78,775件	69,345件	88.03%
ブックちゃん貸出件数		142件	163件	162件	99.39%
自己評価					
継続事業については、予定通り実施できたが、各おはなし会、赤ちゃんを楽しむ絵本広場は臨時休館中は開催出来ず、回数は減少してしまった。また、YA世代間の情報・交流コーナーの設置はコロナ禍のため延期を余儀なくされた。ただ、YA作家のトークライブ、ひとはことしょかん中高生編を実施でき、交流コーナーの設置に向けての土台作りができた。また、絵本作家さんとのワークショップを4回延期しやっと実現した。大盛況であり、子どもたちの笑顔があふれる事業となった。一般向けとしては、初の試みとして、一つの展示コーナーを選書から装飾まで行う「ブックディレクターになりましたか」という企画を実施。参加者同士の読書交換もあり、場の創出が生まれた。					

運営計画 4 魅力的かつ効果的・効率的な運営体制の構築					
事業名	具体内容	実施	取組状況		備考
4-1 効果的・効率的な図書館運営	業務改善の実施	○	随時実施		
	個人情報保護のための取組の継続	○	「個人情報監査（本社による）」 「プライバシーマーク研修」の実施		7月
	利用者要望の把握と実現	○	サービスアンケート・ご意見箱 投書ほかで随時対応		10月
	★webアンケートサービスの活用	○	3月19日～4月12日実施 56人回答		
4-2 職員の知識・技術・能力の育成と継承	接遇の向上	○	随時実施		
	専門性の向上	○	館内研修で実施		
	郷土に関する研修の実施	○	市史編纂室職員が講師で実施		
	危機管理に関する意識の共有と研修の実施	○	随時実施		
	個人情報保護研修	○	「プライバシーマーク研修」の実施		
4-3 図書館サービスの周知	図書館報・市広報・新聞を用いた情報発信	○	随時実施		
	インターネットを用いた情報発信の充実	○	HP・Twitterでの情報発信		
	デジタルサイネージの活用	○	イベント情報、郷土関連展示などに使用		
	地域デジタルコンテンツの公開と充実	○	随時		
	★SNS発信コーナーの創出	○	Twitter開始/毎日更新		
4-4 アウトリーチの促進	要望に応じた人材の派遣	○	まなぶくんへのスタッフ派遣		
	障がい者サービスの周知	○	随時		
	移動図書館車を用いたアウトリーチサービス	○	保育園などへの団体貸出など。 随時。		
	非来館型サービスとしての電子図書館の充実	○	「デジタル伊能図」・期間限定雑誌サービス導入（再掲）		
運営計画4における成果指標	指標算出方法	基準値（H29）	目標値（R3）	当年実績	達成率
司書派遣事業件数	—	11件	13件	5点	38.46%
利用者満足度	—	94.20%	94.30%	95.37%	101.13%
自己評価					
今年度は、デジタルへの強化に力を注いだ。まず構築が間に合わず延期としてた「WEBアンケート」を今年度構築し実施の運びとなった。またこのコロナ禍の中好評である電子図書館の更なる利用増に向け、新しい試みを積極的に取り入れ、期間限定の雑誌サービス、そしてデジタル伊能図を導入した。デジタル伊能図に関してはお客様説明が出来るようスタッフ研修も取り組んだ。重点項目である「SNS発信コーナーの創出」はツイッターを活用し、事業、資料の情報を提供している。今後も継続的にPRを図る。					

2021年度 単年度目標					
単年度指標	内容	基準値 (H29)	目標値 (R3)	当年実績	達成率
新規利用登録者数	基準値増加率100.6%	2,277人	2,321人	1,063人	45.80%
入館者数	基準値増加率100.6%	309,377人	315,031人	198,203人	62.92%
貸出人数	基準値増加率100.5%	92,006人	92,412人	66,300人	71.74%
貸出冊数	基準値増加率100.5%	451,748冊	458,619冊	343,668冊	80.17%
自己評価					
いずれの数値も目標値に対して大きく未達成となった。通年で新型コロナウイルス感染拡大の影響（5月、6月、8月、9月の臨時休館、おはなし会等のイベント開催自粛、利用者の来館自粛等）が大きい1年であった。目標値はそれぞれ未達成だが、10月以降は前年度対比より利用人数、個人・団体貸出冊数、予約件数、登録者人数ともに90%以上まで戻った。利用者の読書意欲の復活とともに図書館として年度後半、各種館内展示に力を入れた効果がでたものとする。					

令和3年度年度総合評価
令和3年度は、コロナの終息の目途もたない中、全サービスが減少する結果になったが昨年度の経験を活かし、館運営を行った。特に事業に関してはここ数年延期・中止としていたものをほぼ実施した。さらに今年度は記念すべき図書館条例施行70周年の年であり、さらに記念事業をする形にもなったが、子どもから大人まで楽しんでいただき、昨年度とは違い館内に笑顔を溢れる1年になった。また、施設管理に関しても、ご要望の多いトイレの改修に加え、換気に使用している排煙窓、経年劣化による壁の傷み等を修繕し、今後も長く使用できるよう取り組んだ。